



患者さまと市立小樽第二病院をつなぐ広報誌

しんらい

信 頼

創刊号
2007年
6月

平成 19 年 6 月 27 日 市立小樽第二病院広報委員会 発行責任者：馬渕正二



写真：心臓カテーテル（循環器科）。カテーテル（細い管）を心臓まで挿入し、冠動脈造影や血管治療を行います。

●創刊によせて

病院長 馬渕 正二



このたび、市立小樽第二病院では広報誌「しんらい」を創刊しました。この小誌の中には、第二病院の現在の状況や未来の計画を記載しています。診療内容、病院行事、病院事業、将来計画など、第二病院で働く職員が何を考え、どのような事をしているのか、市民の皆さまに少しでもご理解いただければ幸いです。

さらに、病院は市民生活と決して切り離すことはできず、市民の皆さまのご支援がなければ、立ちいきません。今後、皆さまのご意見をいただき、小樽第二病院が市民の皆さまとともに前進していきたいと考えます。

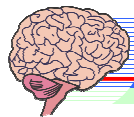
広報誌「しんらい」が、数多くの皆さまに読んでいただけるよう努力いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【市立小樽第二病院 基本理念】

『市民本意の医療を行い、地域に根ざした市民に信頼される病院を目指します。』

— 基本方針 —

- 1) 24時間365日、救急医療を積極的に推進します。
- 2) 安全な医療を提供できるように、職員の安全教育を強力に推進します。
- 3) 患者さまの人格、信条を尊重し、患者さまに優しい医療を提供します。



脳神経外科

脳神経疾患に幅広く対応

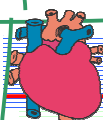
脳神経外科は、平成19年4月より馬淵正二院長、高橋明弘医療部長、簗島聡医長、新谷好正医長、宮本倫行医師の5人体制で診療を行っております。今後も、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞をはじめとした脳血管障害のほか、脳腫瘍、特発性水頭症、顔面まひや三叉神経痛、脊椎脊髄疾患に対する診断・治療を幅広く行っています。

またトピックスとしては、最近テレビや新聞などで報道され、注目されている脳脊髄液減少症という病気があります。交通事故などが原因となり、脳や脊髄を包んでいる膜が破れて脳脊髄液が外に漏れ、頭痛、めまいなど多彩な症状をもたらします。これまでは診断が確立できず、さまざまな症状に苦勞された方が多数いらっしゃいました。最近は診断が可能になるとともに“ブラッドパッチ”という手法で

治療ができるようになっていきます。この4月に、有数の実績を持つ高橋医療部長が赴任し、市内外多数の患者さまの治療を行っています。

また、当科ではベッドを70床まで増設し、市内のみならず、西は黒松内から、寿都、岩内、ニセコ、倶知安、蘭越、仁木、余市とほぼ後志全域からの患者さまを24時間体制でお受けしています。救急医療を積極的に行っていますが、当院の構成上、脳・循環器系以外の合併症を有する複合外傷などへの対応は当院のみでは困難で、市立小樽病院などの他診療科の協力が不可欠です。今後、計画されている市立両病院の統合により、多数の診療科の協力が可能となり、さらに重篤な合併症を有する患者さまの治療ができるようになると思っています。

これからも皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。



心臓血管外科

あなたの「足」は大丈夫ですか？

足がだるい、しびれる、冷たい、つっぱる、むくむ…。そんな症状に悩まされていませんか？「足の健康」は、人間として生きていく上で、とても重要なことです。

「心臓血管外科」と「足」は関係あるの？と思われるかもしれませんが、ところが、足の症状は「血管の病気」によって起きることがとても多いのです。動脈硬化によって血管がふさがってしまう「閉塞性動脈硬化症」という病気や、足の血管がふくらんでくる「下肢静脈瘤」など、足の健康を害する病気はいろいろあります。私たちは、これらの「血管の病気」の治療を積極的に行っています。



中でも「閉塞性動脈硬化症」は、足の血流が少なくなる病気ですので、足の痛みや冷感などを起こしやすく、ひどく進行すると足

の切断に至ってしまう恐ろしい病気です。

私たちは、これまでの数多くの治療経験をもとに最新の検査機器・医療技術を活用して治療を行っています。手術で血管を治すだけではなく、患者さまによっては切らずに治す「血管内カテーテル治療」を行うこともあります。

また、足の血管がボコボコとふくらんでくる「下肢静脈瘤」という病気の治療も積極的に行っています。この病気は、血管がふくらむだけではなく、足のむくみや倦怠感を引き起こします。

従来、下肢静脈瘤の手術は、1週間ほどの入院を必要としていましたが、平成18年から日帰りでの手術が可能となりました。

このように、私たち心臓血管外科では心臓・大血管手術だけではなく、「足の治療」にも力を注いでいます。





循環器科

10年後の健康のために

脳梗塞^{こっせく}、心筋梗塞^{こっせく}といった病気は、ある日突然起きるものと思っていませんか。そのとおりですが、医者の立場からはそうではないとも言えます。心臓は車と言えばエンジンであり、その不調に気付けるかどうかは異常の原因にもよりますが運転者次第です。ちょっとしたエンジン音の違いなどから異常に気付くことができることもあれば、エンストするまで全く気付かないこともあります。車の場合は小まめに整備すれば異常を早期発見できる可能性も高くなります。しかし、人の場合は、エンジンのように分解して中身を調べることはできないのです。そのため超音波や X 線などを用いて何とか外側から調べようとする訳ですが、動脈硬化がどれほど危険な状態に近づいているのかを完全に予測するのは困難なのが現状です。

4月から始まった「心臓ドック」において、心臓病の「発見」よりも「予防」に重点を置いているのもそのためです。

動脈硬化の予防は、まず「自覚」から始まります。加齢以外に動脈硬化を促進する因子、高血圧・糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・肥満・喫煙・ストレスなどの危険因子の有無をまず「自覚」して、その一つ一つを排除するきっかけを作るのが「心臓ドック」です。40歳以降の自覚症状のない、生活が不規則で健診で軽い異常を指摘されたことがあるような方にこそ、「心臓ドック」が必要です。

脳梗塞・心筋梗塞は動脈硬化の「末期状態」ですから、起こしてしまえばどんなに治療しても「初期状態」には戻りません。医師にとってもある意味、起きてしまった脳梗塞・心筋梗塞をマニュアルどおり治療する方が容易で医師・患者双方の満足度も高い感じがしてしまいがちですが、本当に大事なものは10年、20年かけて「動脈硬化」を予防する、目には見えない地道な努力です。

健康に生きるため、頑張りましょう。



精神科・神経科

高齢化・ストレス社会を反映

市立小樽第二病院精神科・神経科では5名の医師（うち精神保健指定医4名）が外来・入院治療に従事しています。

精神疾患は主に3つに分類されます。

- ①症状性を含む器質性精神障害（認知症など）
- ②内因性精神障害（統合失調症、躁うつ病など）
- ③環境への不適応としての精神障害（適応障害などの心因反応、社会不安障害やパニック障害などの神経症）

精神科といえども、まずは頭部画像検査や採血などで“①”の有無について検討するところから診断が進められていきます。



当科を訪れる患者さまは児童・思春期から高齢者に至るまであらゆる年代に及んでおり、近年の高齢化社会、ストレス社会を反映してか受診患者数は年々増加する傾向にあります。

治療は、薬物療法、精神療法、環境調整が中心となります。

当科外来では平日の午前および火・水・金曜日午後には新患を受け付けています。また、今年度からは2病棟体制（開放病棟50床、閉鎖病棟50床）で入院患者さんの治療を行っています。

コ・メディカル部門も充実しており、デイケア、作業療法、心理療法（臨床心理士）、相談業務（精神保健福祉士）の利用・活用も必要に応じて可能となっています。



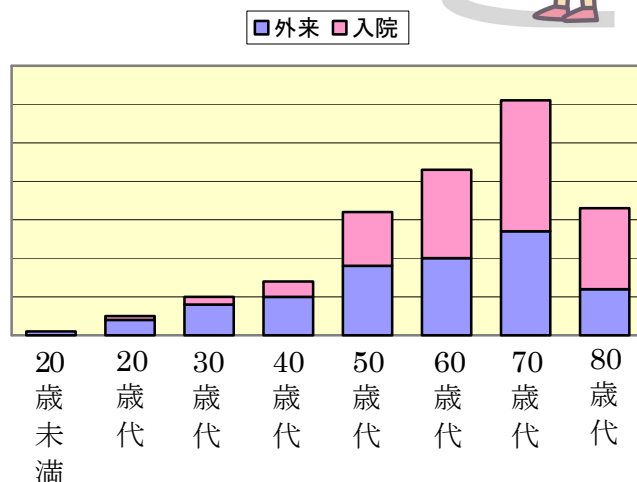
デイケア利用者の作品

数字で見る「第二病院」の平成18年度

- 外来を受診された患者さま
延べ 67,309人 (1日平均275人)
- 入院された患者さま
延べ 76,507人 (1日平均210人)
- 夜間、休日の救急患者さま
延べ 879人 (うち594人が入院)
- 透析を受けられた患者さま
延べ 5,674人 (実患者数520人)
- 施行された手術件数
総手術件数 650件
(うち血管内手術145件)



● 患者さまの年代比率



心臓・血管ドックのご案内

日本人の死亡原因の第2位は『循環器疾患 (心臓・血管疾患)』です。また、突然死の原因の90%は心臓・血管の病気が占めています。当院では『心臓ドック』と『血管ドック』を行っていますが、心臓・血管の病気を早期に発見し、生活習慣の見直しや適切な治療によって、発病予防・悪化防止することは、健康を保つ上でとても大切なことです。

心臓ドック

レントゲンや血液検査に加え、心臓エコー、運動負荷心電図を行い、**狭心症・心筋梗塞などの心臓病の有無について診断**し、総合評価と生活指導を行います。

- 予約制 毎週火曜の午後
- 料金：19,000円

血管ドック

レントゲンや血液検査に加え、CT、血圧脈波検査、^{けいぶ}頸部エコーを行い、**血管の硬さや詰まりの程度、血管年齢などを判定**し、総合評価と生活指導を行います。

- 予約制 毎週 月曜・金曜の午後
- 料金：19,000円

※心臓ドック・血管ドックともに、症状がある方や異常が発見された場合は健康保険適用となります。



エコー検査



血圧脈波検査

【ご予約・お問い合わせは】

市立小樽第二病院 地域医療連携室
電話 (代) 0134-33-4151 (内線 163)

おくすりの袋が新しくなりました！

デザインと大きさが変わりました。
表示が見やすくなりました！

印刷されます。
おくすりの名前と量が

ID: 123456 お名前をお書きください

のみぐすり (1/1)

2007年06月05日 心外科

オタル タロウ

小樽 太郎 様

1日3回 14日分

朝・昼・夕食後

錠剤 1回1錠

錠剤 1回1包

ロキソニン錠120mg 1回1錠 マーズレンS錠 1回1包

市立小樽第二病院
小樽市長橋3丁目11番1号 電話 (代表) 0134-33-4151

ご覧ください

市立小樽第二病院 ホームページ

アドレス

<http://www.med-otaru.jp/dai2hp/>



- ◆ 受付時間 午前8時40分～/午後1時30分～
 - ◆ 休診日 土曜・日曜・祝日 年末年始
- 発行：市立小樽第二病院
〒047-0036 小樽市長橋3丁目11番1号
TEL(0134)33-4151・FAX(0134)32-6347